

昭和53年度

和歌山県名匠表彰受賞者

敬称略（五十音順）

和歌山県名匠

芝 安雄（芝 安男）

職 歴

本宮町皆地は、皆地笠発祥地といわれ数10戸の家で製造されていたが、この道40年余現在同氏だけが、この伝統をうけ継いでいる。

業績の概要

この地方で、いぞことよぶ茶摘み籠を作っていた父に、幼少より手伝いを通じてその技法を修得された。

昔はやはり、生活用品を中心に籠・蓑・笠等を作っていたが生活様式の変化により次第に民芸品へと変わりつつある。

なかでも茶道具としての花活用、手付籠、掛花籠や炭取りは、注文に応じきれないほどであるが、特殊なものとして京都の聖護院・比叡山延暦寺の行者笠は、現在では、すべて同氏の手によるものである。

昭和52年植樹祭木まつりで高陛下に実演を披露されたほか、東京銀座の有名民芸店「たくみ」では、伝統ある民芸品の一つとなっている。

これらのことにより昭和53年県政功労者として和歌山県知事から表彰を受けられた。



民芸品製作